

# 青山サロン みんなで俳句をつくりましょう！



短歌・川柳・詩も OK

ハイクだより NO.6

2023年6月15日

夏井いつき先生のことばから

俳句を知ると人生が変わる！

## 俳句こそ人生だ！

- 俳句で脳トレ！老けない脳に。
- 俳句で人生が楽しくなる！  
頭もよくなる！
- 俳句で脳が若返る！  
認知症も防げる！



祝して  
句集の発刊を



## これも季語？ 夏

歳時記には「え？これも季語？」という言葉がたくさんあります。**ハンカチ・髪洗う・香水**など。夏は暑くて汗をかくので、とりわけ必要…という理由から、これらが夏の季語とされたようです。**船遊・滝見・金魚玉・熱帯魚・箱庭・レース**も涼しさを体感したり、見るからに涼しげなものを身近に置いたり。他の季節でも行われているけれど、やっぱり夏が最適という季語の一つが**登山**。**ザイル**や**山小屋**(登山小屋)も季語。**キャンプ**や**ヨット**などもこの部類。**ビール**や**焼酎**、**甘酒**も夏の季語。甘酒は暑気払いにいい飲み物ということで、夏の季語になったのだそうです。

◆次のページ俳句・短歌・川柳を新聞や雑誌などから紹介します。俳人や歌人以外は苗字のみです。

俳句のしくみ

- ① 五七五の十七音
- ② 季語が入る(季節を表す魔法の言葉。)
- ③ 切れ字がある(や かな けり)

- ◆ 山笑うあまた付箋の旅ガイド……押川
- ◆ 先回りして野火の鼻叩きけり……かじもと
- ◆ 新しき自転車並ぶ春隣……永野
- ◆ 潰さずに残せし牛舎つばめ来る……松山
- ◆ 目のくらむ高さにありぬ山の藤……真鍋
- ◆ 旧家にて初孫なりや鯉幟……森
- ◆ 父母の墓に姉の加わる弥生かな……西村
- ◆ マネキンの脚すらりと夏近し……立山
- ◆ 鯉幟鯉幟に鯉幟……宮田
- ◆ 春寒や仕事帰りのワンカップ……有阪
- ◆ 眠りたくなればねむりて蝶の唇……後藤
- ◆ リヤカーに鈴生りの子ら山笑う……小川
- ◆ 田起こしと一行しるす農日誌……館
- ◆ 菜の花やしばらくは来ぬ路線バス……渡辺
- ◆ 土塊を顔に撥ね上げ耕せり……高橋
- ◆ 卒業や関を越えゆく水の音……佐々木
- ◆ 聞き役の一人に徹し日向ぼこ……村田
- ◆ 亡き人の言葉湧くこと梅開く……矢野
- ◆ 身の丈を忘れて轆かる春の蛇……志葉
- ◆ 煮凝りを猫と分け合ふ朝餉かな……加津
- ◆ 司令部の地下へ地下へと春暑し……関根
- ◆ 浮雲や無人売り場の露の臺……白方

短歌のしくみ

- ① 五七七七の三十一音
- ② 季語はいらない。

- 悲しみは区切出来ぬと被災者の語は三月十一日……笹尾
- ロボット犬をヘットと言いつらし昨今は飼つてみよかという気になりぬ……井上
- 冬夜に介護の吾や怖くなる  
虐待の未来か過労死の未来……野中
- 原発を動かすための策略か  
電気料金の引き上げ続く……成田
- 寝ていても一首はできる紙とペン  
胸の上へのせ聴く青葉風……武蔵
- 香り立つ仏間に座る幼子は  
じいじの匂いがいつばいと言つ……鈴木
- 運動は運を動かすエネルギー  
目覚めの伸びを布団の中で……竹本
- 採る人のおらぬ八朔ポケットに  
夫帰り来る畔焼き終えて……三浦
- 散水に誘われ来るジヨウビタキ  
オレンジの胸フルフル洗う……今村
- 二千年を見透かし微笑ふ縄文の  
眼窩の永遠を想つ……大建
- 七歳児が飛んでる鳥の群れ見上げ  
空にも「スニー」あるんだねと……鈴木
- 八十年添ひ来し夫の身罷りて  
途方に暮るる百二歳われ……津田

川柳のしくみ

- ① 五七五の十七音
- ② 季語はいらない。

- ★ 徴兵も閣議決定しかねない……桑山
- ★ 死者最多あとは自助でという五類……三神
- ★ 初春に軍拡予算怒髪天……田辺
- ★ 子どもより武器に明日を託す人……中野
- ★ とむらいの簡素化まんざら悪くない……きみえ
- ★ 起きるのは目覚ましよりも尿意です……小春日
- ★ 卒業か君の口元見たかった……口高
- ★ 焼く餅の匂いに昭和蘇る……口高
- ★ なるほどと料理番組見てるだけ……清泉
- ★ 即個室入れる人から類決め……みいじい
- ★ ジェンダーフリー中間色のランドセル……宮崎
- ★ 食べ過ぎりやなんでも不健康食品……小藤
- ★ つびやきを十七文字で書きなさい……土岐
- ★ 愛国を装いながら国を売り……藤井
- ★ 蜜柑剥く家族写真の色褪せて……中尾
- ★ 息白し号砲を待つアスリート……岡
- ★ アメリカの傭兵になる自衛隊……都留
- ★ バイデンに肩を組まれてご満悦……粕川
- ★ 大軍拡子ども政策産め増やせ……金倉
- ★ 三役が勝つて号外大相撲……鳴海
- ★ プッチンとなつたら怖い核ボタン……佐々木
- ★ 伝書鳩外遊先で鷹に化け……土屋
- ★ 庶民には鬼より怖い物価高……水野
- ★ 近頃の右肩上がり物価のみ……荒瀬
- ★ 過疎の畑太陽光に食われている……ター坊

## 渥美清と俳句 ⑤

森英介『風天 渥美清のうた』文春文庫より

### 尾崎放哉をやりたい

「男はつらいよ」シリーズが 40 作を超えたころ、渥美清は「吉村昭の小説『海も暮れきる』を読んだ、この尾崎放哉の役をやりたい」とテレビ脚本家で古い友人の早坂暁に伝えた。「放哉は結核で死んでいったが、自分も結核で随分苦しんだし、今も苦しんでいる。放哉に〈咳をしても一人〉という句がある。この役には自信がある。結核患者の咳は普通の咳ではない。特殊な咳だ。音叉で響くような咳だ」とも伝えた。早坂暁は「放哉のドラマは渥美ちゃんの代表作になる」と言った。

NHK の全国放送でドラマ化の話が進み、渥美と早坂はNHK のスタッフと一緒に放哉終焉の地、香川県の小豆島ヘシナリオハンティングに行った。その時、NHK の松山放送局が先に放哉のドキュメンタリードラマ(主演 橋爪功)を制作中であることが分かり、渥美・早坂企画は途中で中止せざるを得なくなった。

早坂は、放哉の弟子山頭火をやろうと渥美に提案。寅さんの撮影の合間をぬって、NHK のディレクターと 3 人で、山頭火の生まれた防府、下関、熊本、湯布院、最後の地の松山までゆかりの地を巡り、ゆかりの人々にあった。しかし、ロケ開始の 1 週間前になって、渥美清は早坂に「寅が山頭火になったらみんなが笑わないかねえ」と言った。早坂は、「最初は笑うかもしれないが、すぐに笑わなくなる」と懸命に説得したが、渥美の意思は変わらず、テレビドラマから降りてしまった。「映画との義理を優先したのだろうね」と早坂は言う。NHK は急遽、フランキー堺を代役に立ててドラマ「山頭火・何でこんなに淋しい風ふく」を放映した。

渥美清は、浅草フランス座に出演中の 26 歳のときから 2 年間、肺結核のため入院、右肺の全摘手術を受けた。「僕は、右肺葉切除で、取った直後は、肺活量が千何百しかなかった。両足ある人が片足の人のつらさが分からないのと同じように、これはいくらいっても丈夫なひとにはわからないですよ。僕は本当に再発というのが怖かった。」退院後は、浴びるように飲んでいて酒をぶつとりと辞め、摂生に努めたが健康に対する不安、死に対する恐怖は人一倍強かった。

### 尾崎放哉 (おぎきほうや)

大正期の俳人。安住の地を求めて流浪した尾崎放哉は、“昭和の芭蕉”種田山頭火と共に『漂泊の俳人』と呼ばれる。両者は共に、季語や五・七・五という俳句の約束事を無視し、自身のリズム感を重んじる「自由律俳句」を詠んだ。放哉は鳥取市出身。



渥美は、あるとき最後の付き人の篠原靖治に「オレかい？ オレはね、ひとり静かに、誰も居ない山道をとぼとぼと歩いていくんだよ。そうすると、枯葉がね、チャバチャバと手品師の花びらのように落ちてくるんだよ。それでオレはね、ひとり静かに歩いて行って、パツパツと倒れるんだ。そうするとね、枯葉がどんどん落ちてきて、オレはやがて枯葉に包まれて、かくれんぼうしてるみたいに見えなくなってしまう。そうやってオレは、どこの誰だかわからないように死んでいくんだよ」と語った。(つづく)



青山公民館の玄関「青山サロン ポスト」  
早速の投句ありがとうございます。みなさんからの投稿を  
お待ちしております。俳号(お名前)もお忘れなく！！

久しぶりの青山さのぼり会(4月23日)を前に、青  
山サロン・カラオケをしました。写真とともにおた  
のしみください！

## 青山サロンカラオケ 2023年4月15日(土)



【 あの人もこの人も負けず劣らずカラオケ自慢 】 俊幸





【えーっあの顔でこんな  
に甘い美声とは】

俊幸

2023年4月23日(日)青山公民館 4年ぶりの「さのぼり・焼肉会」

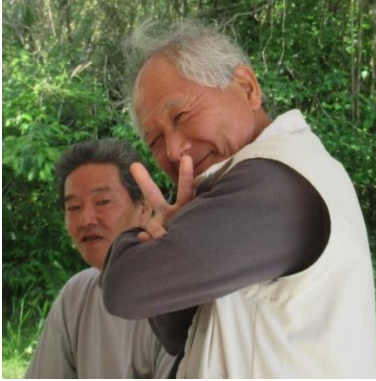
カメラマンは高野倫平君にお願いしました



公民館長! 肉が足りんぞ!? 今、買いに行った!!



何処のよかニセだ？





## 青山の作品コーナーその⑤

※長雨で

青山 一休

◆農作業しき父母の苦勞知る

◆五月晴れまっつてましたとくすりかけ



◆初ガツオ

高すぎてな

なか買えず

※令和5年の

春一番は控えめで、黄砂は続いてきた。春の朝、目を覚まし西の空を眺めれば、木々の芽もピンク、黄緑と初春の色から緑色も濃くなり、艶も出て春の移ろいを感じて幸福にひたり、健康美を肌で知り、深呼吸を重ねる毎朝です。老いたくない。

川崎 年治

◆いちよつも緑の衣つけ夏準備

◆吉野桜霞の空にかくれんぼ

◆雨あがりカエル・ウグイス大合唱

◆朝起きて小枝にそよ風さそよきの音

◆そのぼりを「コロナで忘れ大はしゃぎ

※やのあしひく一句

俊幸

◆いっしつと声も弾むやさのぼり云い

継ぎ

◆さあ歌えや踊れ豊年

満作祈願して

◆さのぼりや山河の神

も踊り出て

◆なかなか会えぬ顔も

みんな揃ってさのぼりや

※猫と鳥で一句で

好々猫

◆腕枕むかし吾子で

いまはない

◆もろこしの刈られ

ぬら本ヒバリの巢



※田植えで一句

俊幸

◆「こーいどん田植えとは

母ちゃんたちの運動会

(十人くらいが横一列に並びはじまる。やたら早い人、遅い人、見ている子どもたちは、各自自分の母ちゃん応援役)

◆米作り今年も赤字

気抜けかな

◆昔ひと月今二日の田植えかな

◆今は昔さあ昼飯、足には蛭が早弁満腹

◆恐ろしや馬蛭達がやってくる(小指大

の馬鹿でかい馬蛭が田にたくさんいた。四方八方から私の足に向かって泳いでくる。農薬の使用で消え去った。そう考えると農薬も実に怖いものだ。)

※近況で一句

忍弘

◆青山に新築の音南風

◆梅雨晴れに屋根の修理急がせる

◆モロコシの値上がらず音を上げる

